

## 令和7年度第3回島根県幼児教育推進協議会 出席者名簿

### 1. 委員

氏名	所属・職名	出欠
小山 優子	公立大学法人島根県立大学人間文化学部 教授	出
武田 優美子	島根県国公立幼稚園・こども園長会 会長 (松江市立しんじ幼保園 園長)	出
西谷 正文	島根県私立幼稚園連合会 理事長 (学校法人光幼稚園認定こども園光幼保園 園長)	出
川上 雅文	荒茅保育園 園長	出
相山 慈	認定こども園あさりこども園 統括園長	出
塩満 恭子	認定こども園神田保育園 園長	出
黒崎 美明	島根県幼児教育研究会会長 (出雲市立今市幼稚園 園長)	出
佐藤 淳	島根県小学校長会会長 (松江市立大庭小学校 校長)	出
岡田 直樹	島根県幼稚園・こども園PTA連合会 会長	欠
持田 万規子	松江市こども子育て部こども政策課 保育指導官	出
重田 幸	大田市健康福祉部こども政策課 副主幹	出
八束 政義	島根県教育庁特別支援教育課 課長	出

### 2. 事務局

氏名	所属・職名
伊藤 広志	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 室長
野島 博行	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 企画幹
野津 明久	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 指導主事
関野 淳也	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 指導主事
岩成 佳子	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 幼小連携・接続アドバイザー
永島 千津子	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 幼児教育コーディネーター
小笹 葉太	島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 主事
梶谷 美鈴	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 課長補佐
高橋 ひとみ	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主査
渡邊 紀子	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主任

令和7年度 第3回島根県幼児教育推進協議会  
議事次第

- 1 日時 令和8年3月9日（月）10：00～12：00
- 2 会場 サンラポーむらくも 2階 八雲の間
- 3 議題
  - (1) 幼小接続プラットフォームフォーラム振り返り
    - ・アンケート結果より（資料1）
  - (2) 令和7年度 幼児教育総合推進事業の成果と課題
    - ・幼小連携・接続に関する実態調査より（資料2）
    - ・質疑応答
  - (3) 令和8年度 幼児教育センターの体制について
    - ・令和8年度 幼児教育センターの体制案と取組の重点（資料3）
    - ・幼小連携・接続アドバイザー業務の振り返りと次年度の見通し（資料4）
    - ・幼児教育コーディネーター業務の振り返りと次年度の見通し（資料5）
    - ・島根県幼児教育センター主催研修の次年度の見通し（資料6）
  - (4) 幼児教育推進協議会委員より
    - ・幼児教育センター 令和8年度取組への意見
  - (5) その他
    - ・令和8年度 行事予定（資料7）
- 4 配付資料
  - 資料1 令和7年度 島根県幼小接続プラットフォームフォーラム 成果と課題
  - 資料2 令和7年度 幼児教育総合支援事業の成果と課題
  - 資料3 令和8年度 幼児教育センターの体制案と取組の重点
  - 資料4 幼小連携・接続アドバイザー業務の振り返りと次年度の見通し
  - 資料5 幼児教育コーディネーター業務の振り返りと次年度の見通し
  - 資料6 島根県幼児教育センター主催研修の次年度の見通し
  - 資料7 令和8年度 行事予定

2026年3月9日 第3回幼児教育推進協議会

令和7年度島根県幼小接続  
プラットフォームフォーラム

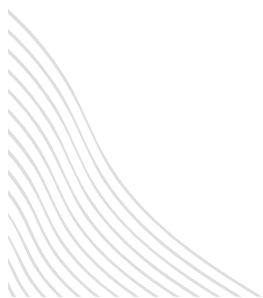
成果と課題



# 主要な成果

## 第1部 パネルディスカッション

- 理解と共感: 県の方向性や取り組みを理解し、パネルディスカッションでの多角的な視点や具体的な提案に共感、多くの気づきを得られた。特に「対話と実感」や「幼小連携を優先順位に入れ込まない」という視点が印象的だった。
- 相互理解の深化: 各立場の「生の声」を聞くことで、相互理解の重要性、特に管理職の役割の大きさを再認識。横の連携の重要性にも気づき、今後の実践への意欲が高まった。



# 主要な成果

## 第2部 グループ協議

- 現場との対話と課題共有：行政が現場の先生と直接話し、各自治体が抱える連携・体制構築の難しさを共有できた。規模の近い自治体間の議論は特に有意義で、共通の課題に共感し、安心感が生まれた。
- 他事例からの学び：他市町村の具体的な取り組みから、自組織で活かせるアイデアや刺激を得られた。「今あるものを活用する」「多様な視点からのコラボ」といった考えが共有された。
- 連携の重要性再認識：幼小関係部署や担当者間の「仲の良さ」が、円滑な連携に不可欠であると再認識された。



# 各市町村「我が町の取組」より

## 1. ターゲット（誰に）

- 管理職と担当者
- 管理職
- 全職員（例：安来市）

## 2. アクション（何をする）

- 研修、公開保育や授業、情報共有

具体的

- 架け橋期カリキュラムの作成
- 架け橋カリキュラムの評価・改善
- 軽重をつける（西ノ島町）

## 3. 未来（どうなる）

- 教職員の意識変革や相互理解
- 保育や授業の質の向上
- 地域の教育文化として根付く（雲南市）  
日常業務になる（川本町）

最終的

- 主体的に学ぶ姿の増加（大田市）
- 安心して小学校生活を送る姿（同上）
- 架け橋期につけたい力がつく  
（邑南町）

# 改善・要望に関して

フォーラムの開催で明らかになった主な課題点や改善点

## パネルディスカッションに対して

架け橋カリキュラムの具体的な取り組みまで話が深まらなかった点、パネリストの話す時間の配分や、会場からの質疑応答の時間の確保などの要望あり。

## グループ協議に対して

オンライン形式ではなく、直接対面でのより長い意見交換や、より多くの市町村との情報交換の機会を求める声あり。

## 運営等に対して

現場の管理職や多くの担当者にも参加を促すこと、周知方法を検討してほしいこと、教育事務所ごとの開催や、冬場の移動の不便さを考慮した開催時期の配慮を求める声あり。

# 今後に向けて（案）

来年度のフォーラム、再来年度のシンポジウム  
を見通しての現時点での見通し案

## ○来年度（R8）のフォーラムでは

- ・ 時期は今年度と同様に計画中
- ・ 会場は変更予定（県民会館休館のため）
- ・ 時間、内容、参加対象等については検討中  
（実践報告や取組の成果の発表 等）

## ○再来年度（R9）のシンポジウムでは

- ・ 現場も含めて参加対象を広げる
- ・ 参加者増に伴い、会場は大規模会場で
- ・ その他、詳細については今後検討

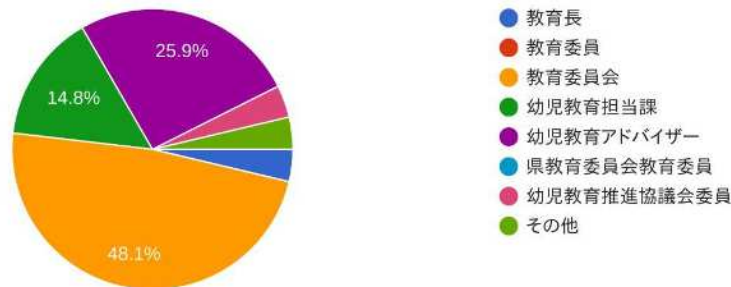


## 幼小接続プラットフォームフォーラム 参会者アンケートまとめ

### ●回答者役職・所属

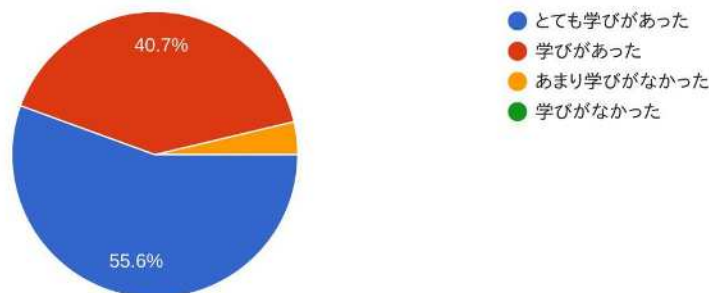
役職・所属

27件の回答



### 第1部 パネルディスカッションについて

27件の回答



### ○意見要約 (AI にて)

#### ☆肯定的な意見

- 理解と共感**: 県の方向性や取り組みを理解し、パネルディスカッションでの多角的な視点や具体的な提案に共感、多くの気づきを得られました。特に「対話と実感」や「幼小連携を優先順位に入れ込まない」という視点が印象的でした。
- 相互理解の深化**: 各立場の「生の声」を聞くことで、相互理解の重要性、特に管理職の役割の大きさを再認識。横の連携の重要性にも気づき、今後の実践への意欲が高まりました。

#### ★改善・要望に関する意見

- 議論の深掘り**: 架け橋カリキュラムの具体的な取り組みまで話が深まらなかった点、Why/What/Howの明確化を求める声がありました。
- 時間と機会**: 全体的に時間が短く、もっと議論を深めたいという意見が多数。特に、パネリストの話す時間の配分や、会場からの質疑応答の時間の確保が要望されました。
- 意識改革と実践**: 「対話と実感」などのキーワードの重要性が認識されたものの、実感を伴う交流機会の創出と管理職の意識改革の必要性が強調されました。時間確保も課題として挙げられました。

## ○意見原文

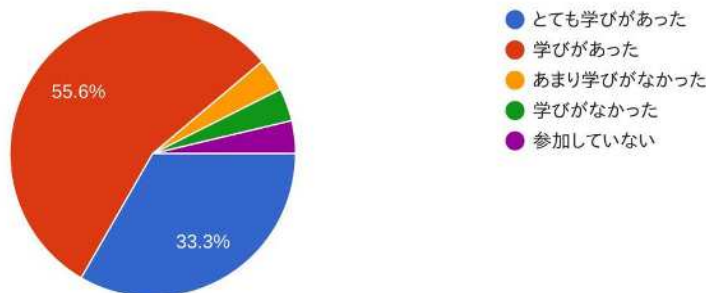
- 県下で取り組まれていることや県の方向性について知ることができた。
- パネルディスカッションでは、各パネラーの皆さまがそれぞれの立場や知見から現状の課題、そして「今後どのようにあるとよいか」という提案を示されており、大変興味深く拝聴しました。特に、保育や授業を互いに見合い、子どもの姿を基に語り合う機会の重要性や、“対話”と“実感”に関する話題は、私自身が今年度、市の幼小連携・接続に携わる中で感じてきた良さや課題と重なる部分が多くあり、深く共感しました。また、個人的には、山本校長がお話しされていた「幼小連携・接続を“優先順位に入れ込まない”」という視点がとても印象に残りました。新たな気づきを得ることができ、今後の実践を考える上でも大きな示唆をいただきました。
- それぞれの立場から生の声が聞けたことで共感できる発言があった。
- 幼小接続といっても自治体や校区によって状況は様々で課題もそれぞれ違うが、願うところは同じだと思います。子どもたちのために大人が何ができるかだと思いました。
- 小学校の管理職の理解や役割の大きさを改めて感じた。
- パネラーの方が出されるキーワードはどれも共感できるものばかりでした。中でも「対話と実感」というワードが印象に残っています。また行政に求められていること等の話もあり、これからの取組の参考になりました。
- 立場や職種の違うパネラーの方のご意見が聞けてとても良かった。
- とても有意義であった。特に、「管内の幼稚園・保育所どうしの連携も重要」との意見を聞いて、はっとした。今までは、「保育所・幼稚園⇒小学校」の縦の関係ばかり気にしていたが、同じ小学校に通う子どもたちがいる場の横同士のつながり・情報共有もとても大切であると気づかされた。
- パネラーの方の地区の取組や思いを詳しく伺うことができたので、今後の取組の参考にさせていただきます。子どもを真ん中に、幼と小がいかに現状と課題を密に話し合えるか、校区の規模によって差があるので担当者としては研修等の機会を作ることで場の保障をし、そこから幼小の関係性を深め、徐々に主体的な連携へと進化することを願っている。
- 校長先生方のご意見が、自分自身の経験からか、ずっと入ってきました。今の立場になり、幼児教育施設を巡回する機会を通して、相互理解の大切さを実感しています。
- 各立場からの様子や意見等が聞け、参考になりました。
- 各パネラーのそれぞれの場所での実践や課題から、実効性・接続可能性のある架け橋期のカリキュラムについてたくさんの示唆をいただいた。
- 時間がないというのはどこでも上がってくることだなと思いました。本当に課題と働き方改革は密接に関係しているので、幼小連携の場を作るためにも、時間をどう産んでいくかが鍵だと感じました。
- 課題提起では、今までの流れや位置づけがよく分かりました。また、パネルディスカッションでは、先進的な取り組まれている地域での成果と課題についてご教示いただきました。できるから取組もうと改めて思いました。
- 幼児教育の立場からの実際に思っておられるお話を聞くことができ参考になりました。お話を聞く中で、何を継続し、何が足りないかが見えてきました。3月の保小連携会議にて、年間計画や活動の見直し、互いの授業を通した学びについて今一度考えていきたいと改めて感じました。ありがとうございました。
- もっとお話を聞きたいくらいでした。
- 様々な立場でのお話を聞くことができよかったです。
- 幼保と小学校の現場で、それぞれの先生が子どもの発達段階のイメージを持っていても、同じものではないし間違った捉え方をしていることもある。同じ見方に立てるような経験(研修、見学)や意識改革を進めていくことの重要性を改めて確認する会となった。
- それぞれの立場からの提案を聞くことができよかったです。もう少し時間があればより深まったよ

うにも感じた。パネルディスカッションを受けてのグループ協議だったので、グループ協議内ではより具体的な話し合いができた。

- 「対話と実感」「意識改革」「温度差解消」など保幼小連携を取り組むうえで大切にしたいキーワードや課題に感じているキーワードが出てきていた。絵に描いた餅にならないためには実感を伴えるような交流の機会の創出や、そこに同じ量の熱を向けられるように、まずは管理職の意識が変わっていくことが必要だと強く感じた。
- 幼・保・小・行政それぞれの実態や課題がお聞きできて今後の参考になるパネルディスカッションでした。それぞれのパネリストが話される時間に差があったので、話したりなかったような人がいたのではないかと少し気がかりでした。ですが、パネリストのそれぞれの立場で考えておられるところが聞いて良かったです。
- 実際の具体例等入れてお話をいただき大変参考になりました。もう少し時間を長く取って、会場から出た質問等に答えていただく場面が見れたらいいなと思いました。
- テーマ:実効性、持続可能性のある架け橋カリキュラムについて、具体的取組まで、話が深まらなかったことが残念であった。パネラーとして、課題の焦点化、課題解決に向かっての取組の整理が必要であったと反省している。幼小接続の取組について、改めて Why.What.How を考えていく必要があると考える。取組の方法（How）は、実態に応じて様々である。全県で共通理解すべきは、なぜ架け橋カリキュラム作成の取組をするのか（Why）、学びの何をつなぐのか（What）である。特に What の内容が明確になれば、幼小共通の視点として、子どもへのかかわりや環境づくりが変わり、保育・授業改善につながると考える。

## 第2部 グループ協議について

27件の回答



### ○意見要約 (AI にて)

#### ☆肯定的な意見

- ・**現場との対話と課題共有**: 行政が現場の先生と直接話し、各自治体が抱える連携・体制構築の難しさを共有できた。規模の近い自治体間の議論は特に有意義で、共通の課題に共感し、安心感が生まれた。
- ・**他事例からの学び**: 他市町村の具体的な取り組みから、自組織で活かせるアイデアや刺激を得られた。「今あるものを活用する」「多様な視点からのコラボ」といった考えが共有された。
- ・**連携の重要性再認識**: 幼小関係部署や担当者間の「仲の良さ」が、円滑な連携に不可欠であると再認識された。
- ・**実践的な議論**: 現場の前向きな実践事例を聞き、課題解決に向けた具体的な方法や、人権教育・交流活動への幼小接続の視点導入など、実践的な議論が深まった。

#### ★改善・要望

- ・**対面・交流機会の増加**: オンライン形式ではなく、直接対面でのより長い意見交換や、より多くの市町村との情報交換の機会を求める声があった。
- ・**議論時間の確保**: グループ協議の時間が不足し、さらに議論を深めたいという要望があった。
- ・**参加形式による影響**: 参加形式によっては学びの機会に差があったとの指摘もあった。

### ○意見原文

- ・ 行政では話す機会があるが、現場の先生方と話し合う機会となり良かった。
- ・ 各自治体の連携や体制構築の難しさを聞くことができ、同じような悩みを抱えていると感じました。
- ・ 他の町の取組や課題等を共有でき、今後に活かせそうな情報が得られた。
- ・ 市町村の規模は違ってても、課題を出し合って話をしたり、取組の様子を聞いたりすることは学びになります。今あるものを使っていく、幼小接続はいろいろな視点からコラボできる、という話が出ました。また幼小関係課・部署の連携、仲のよさみたいなものも本当に大事なと改めて感じたところです。
- ・ オンラインで海士町の方と一緒にだったが保育園や学校も似た感じだった。情報交換できた。
- ・ 同じくらいの規模間の自治体同士でグループ分けをしてもらっており、重要度の高い密度の濃い話し合いができて、とても良かった。(時間が足りないくらいであった。)
- ・ それぞれの課題や今後の計画を聞くことができ刺激をもらいました。10年後も当たり前前に続

いているためには、日々、そして1年ごとの積み重ねが大切であると思っているので、できるところから前進していきたい。担当者同士はもちろん幼小の先生方とのかかわりを大切に、市の取組がより良いものになるよう努めたいと改めて思いました。ありがとうございました。

- オンラインではなく、直接、もう少し長く、意見交流をしたいと感じました。
- 様々な取り組みの様子が聞けました。
- 武田園長・佐藤校長から前向きな現場の声をたくさんお聞きすることができた。この実践を少しずつ広げていくことによって、市全体としても、持続性のある取組につながると感じた。行政として、各校・園所がまず一歩踏み出していけるよう、このような成果の上がっている取組を紹介しながら、伴走者として支えていきたいと思った。
- 海士町よりも進めておられる自治体の方々と話すことができ、たくさんのアイデアが浮かんできました。自治体規模が違うのでそのまま使えない面もありますが、今日浮かんだ発想は大切にしていきたいと思います。
- 同じような規模の町の担当者とお話をする中で、同じような課題を抱えていたり同じような取組をされたりしていることになんとなく安心感や同志のような気持ちをもちました。実践できそうなことを共有できてよかったなと思います。吉賀町で言うと教育委員会と保健福祉課の連携も大切ですねという話がありました。一緒にフォーラムに参加できたことをまずは第一歩にしたいです。
- 他の市町の状況や取り組みを聞くことができ本市でもできることを考える機会になりました。
- ハイブリッド開催のためか、グループ協議のメンバーが限られていました。他の市町村と情報交換も出来ればと思いました。
- いろいろな視点から具体的な話を聞くことができた。話し合いも有意義でよかった。
- パネルディスカッションの中で同様の内容に共感したという話もあり、共感しながら協議をすることができた。他市でも、幼児教育施設職員からみた小学校への壁や小学校教諭からみた保育とは？という壁が同様にあることが分かり、その壁を低くするために行政に何ができるか話あうことができた。
- グループ協議の時間では話きれないほどたくさんグループ内でお話をさせていただきました。
- 課題について、誰がどのようにどうすれば良いのか明確に考える時間となりました。
- すみません、グループ協議に参加していないので「学びがなかった」にチェックを付けさせていただきました。
- 主に、取組の方法（How）について協議した。人権教育、幼小の交流活動に、幼小接続（架け橋カリキュラム）の視点を入れて取り組んでいくという取組は参考になった。

- ③ 今回のプラットフォームフォーラムについて、また、次年度のプラットフォームフォーラムについて、ご意見、ご感想等がありましたら、お書きください。

○意見要約（AIにて）

☆肯定的な意見

- ・**県全体の取り組みとしての重要性:**教育長会議の一環として開催されたことで、県全体の取り組みとしての位置づけや重要性を強く感じることができた。県が主導していることに感謝している。
- ・**学び合いの機会としての価値:**各自治体の実践や課題が共有され今後の方向性を考える上で多くの示唆を得ることができた。幼小接続に関して現状や取り組みの様子を共通理解し、直接対話する良い機会になった。様々な立場の参加者が一堂に会する機会は非常に貴重だった。
- ・**参加形式:**会場参加で生の声が聞けて良かった。オンライン参加の選択肢があり利便性が高かった。
- ・**継続への期待:**次年度も県全体の視点で学び合いができる場として継続してほしい。自治体間の連携や取り組みの深化につながるため、実践の変化や成果、新たな課題を共有できる機会の継続を希望。

★改善・要望に関する意見

- ・**参加対象の拡大:**現場の管理職や多くの担当者にも参加を促し、周知方法を検討してほしい。
- ・**内容の具体化:**幼小接続における発達支援や架け橋カリキュラム、他県の先進事例など、より具体的な内容や深い議論の機会がほしい。教育長レベルからの行政上の課題など、率直な意見交換の場も期待。協議内容の広がりを抑え、Why・What・Howの視点で深掘りする工夫が必要。
- ・**開催形式:**教育事務所ごとの開催や、福祉・教育行政の両サイドが揃う研修機会も検討してほしい。冬場の移動の不便さを考慮した開催時期や場所の配慮も求められる。

○意見原文

- ・現場の管理職も一緒に聞けると良いのではないかな。
- ・今回のプラットフォームフォーラムは、教育長会議の一環としても開催されたことで、県全体の取組としての位置づけや重要性を強く感じることができ、大変意義深い機会となりました。夜の情報交換会も含め、各自治体の実践や課題が共有され、今後の方向性を考える上で多くの示唆を得ることができたと感じています。このような貴重な場を設けていただき、ありがとうございました。次年度についても、今回同様、県全体の視点で学び合いができる場として継続していただくとありがたいです。実践の変化や成果、また新たな課題を共有できる機会があることで、自治体間の連携や取組の深化につながるものと思います。
- ・現場の管理職にも聞いてほしい内容だった。
- ・幼小接続の課題の根源には、子どもの発達に係る部分が大いのではないのでしょうか。奥出雲町は今年度から5歳児健診を始めていますが、発達の支援を促される割合が大きいです。早期の支援と幼児教育の質を充実させ、そして小学校へと育ちをつなぐことが大事だと考えています全国的な視野で、先進地の事例などで学ぶ機会があればと思います。
- ・幼小接続に関して現状や取組の様子などを共通理解したり、直接対話したりするよい機会になったと思います。

- 幼小の架け橋カリキュラムを作成している市町村の話が聞きたい。
- 今回、会場に行き、参加者の方の生の声を直接聞くことができ、とても良かった。開催者の方は、開催準備から、参加者の日程調節等とても大変だったと思う。が、県の教育長をはじめ市町村教育長など様々な役職の方が参加し、とても影響力のある会議となった。ぜひとも次年度も同じようなメンバーで開催してほしい。そして、参加された教育長レベルの方からの感想等（予算面、人員配置面等）行政上の難しい点、しかしやっていかなければならない点など、率直な話も聞きたい。 ※開催者の皆様、本当にありがとうございました。
- かなり、動き出しているので、ぜひ、続けていただきたいです。教育事務所ごとの参集での開催もいいかなと思いました。
- まず自治体内の視線を合わせるためにも、福祉、教育行政両サイドが揃って同じ研修を受ける機会は必要だと感じました。ありがとうございました。
- たいへんお世話になりました。ありがとうございました。
- 冬場でないと、船の接続が良くて行きやすいです…。
- この時期ですと積雪など気象状況により松江への移動が難しいことがあります。オンラインでの参加が選択肢にあったことはとてもありがたかったです。
- 市の中でももっと多くの担当者が聞くべきだと思いました。周知の仕方を考えていきたいです。
- 他県の実践事例を聞く機会があればと思いました。
- 幼小接続充実に向けて、様々な立場の参加者が一同に集まる機会は非常に貴重だと思いました。こういった取組を県が主導してくださっていることに大変感謝しています。現場も工夫して頑張っていかなければと強く思いました。ありがとうございました。
- 今回のようにオンラインがあると参加しやすく喜びます。
- 事務局のみなさま、プラットフォームフォーラムの準備、運営ありがとうございました。当日現地参加できなかった教育委員会ともグループワークの課題の準備にあたり、事前に協議できたので、当日のみならず今回のフォーラムに向けて有意義な時間が取れたと思っています。次年度のフォーラムにもぜひ参加させていただけたらと思います。ありがとうございました。
- 大変貴重なお話をありがとうございました。
- 大変意義ある幼小接続プラットフォームフォーラムであったと思う。パネルディスカッション、グループ協議ともにテーマが壮大過ぎて、協議内容が広がり過ぎの傾向は否めなかった。現在の取組状況、課題、今後の手立てについて、幼小接続の Why・What・How の視点から、協議が深まるための研修会の持ち方については、市の取組において今後考えていきたい。本フォーラム参加に併せて大田市の幼小接続の取組の現在の立ち位置、課題、今後の取組について、幼小接続の Why・What・How の視点から整理できたことは、とても良かったと感謝しています。ありがとうございました。

令和7年度 島根県幼小接続プラットフォームフォーラム 「我が町の取組」まとめ

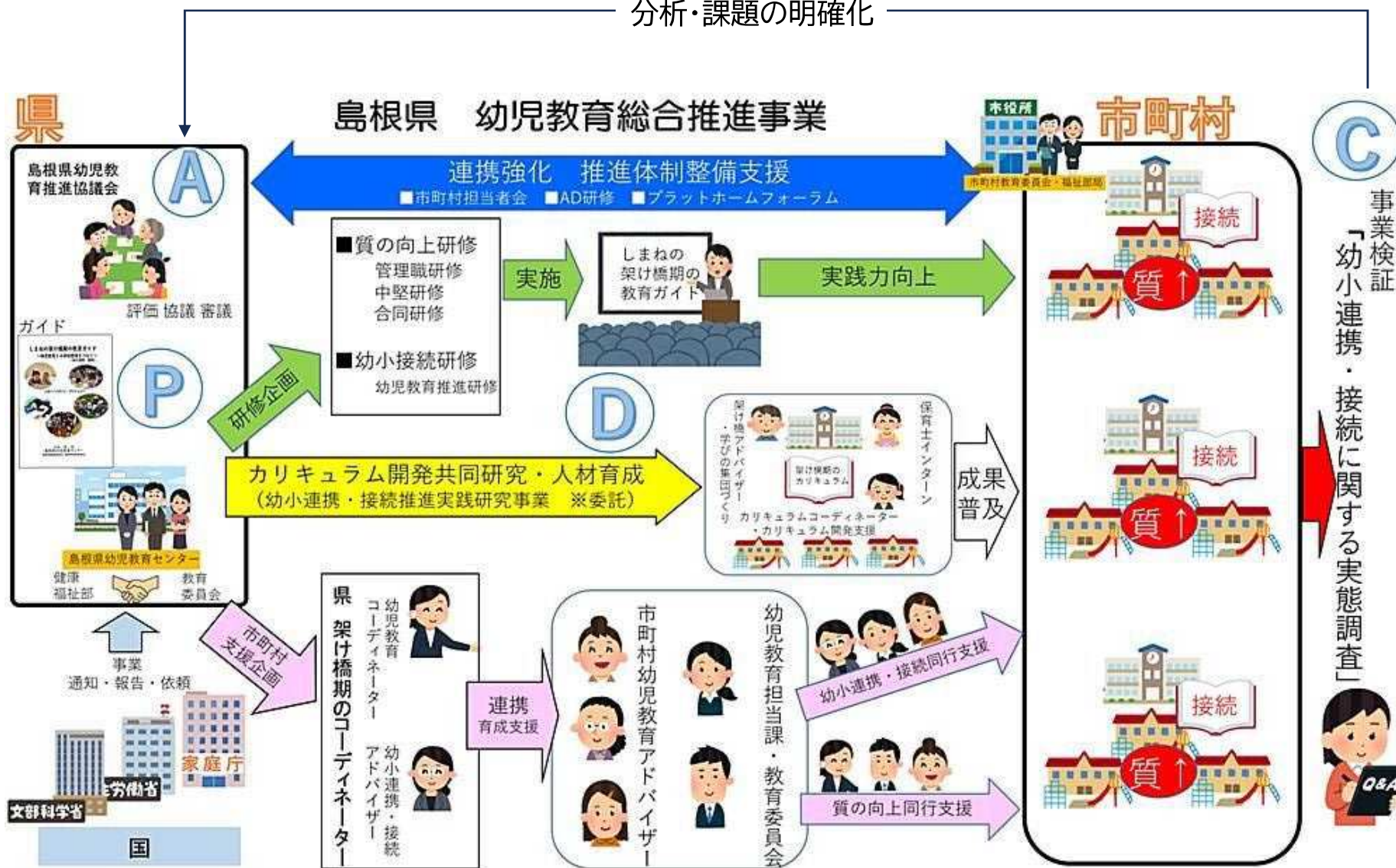
島根県幼児教育センター

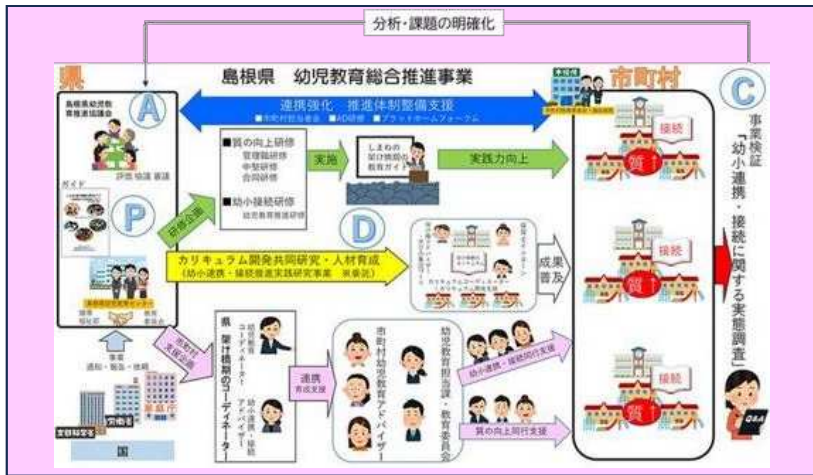
	ターゲット(誰に)	アクション(何を)	未来(どうなる)
松江市	・管理職(校長のリーダーシップ) ・担当者(全体を動かせる立場)	・研修等、幼・小が集まる機会の提供 ・伴走支援 ・方針の提示(幼小架け橋プログラムの手引き)	各小学校区における連携の自走
安来市	小学校・幼児教育施設の全ての教職員	カリキュラムを元に子どもの姿を語り合う場を提供する。	育てる子ども像を共有し、子どもの成長を停滞することなく、つなげていくことができる。
出雲市	幼児教育施設、小学校 職員	公開保育、公開授業、対話の機会の設定	意識改革、温度差解消
雲南市	幼小の職員(管理職)	継続して相互理解する機会を設ける(合同研修会)。	特別な取り組みではなく地域の教育文化として根付く。
奥出雲町	幼児教育施設や小学校の管理職と担任	①学校訪問と幼児教育施設の訪問を実施し、校区の関係機関に参加を促し、授業公開や保育公開と意見交換のコーディネートをする。 ②奥出雲町の幼小架け橋カリキュラムの見直しをコーディネートする。 ③奥出雲町の幼小架け橋カリキュラムを基に各小学校区の幼小架け橋カリキュラムの作成をコーディネートする。	①幼・小お互いの理解が深まる。 ②振り返ることで意識が深まる。 ③幼・小の担当者が、自分のものをして活用できる。
飯南町	小学校と保育所と関係課(管轄課)	保育所と小学校がカリキュラム連携に関して話し合う機会を、教育委員会をはじめとした行政がコーディネートし、年間スケジュールに位置付ける。	保育所と小学校の垣根が低くなり、交流の機会が増え相互理解につながる。
浜田市	校長先生、園長先生、先生方	・行政としての体制づくり ・相互理解を深めた上でのカリキュラム開発の重要性を理解いただくこと ・授業・保育公開(子どもの姿)を通して、互いの学びについて協議する場を定期的を設定すること	「めざす子ども像」の具現化に向けた組織的継続的な動きが生まれる。
大田市	小学校・幼児教育施設(管理職・担当者・職員)	・合同管理職・担当者会の実施 ・合同研修会の実施 ・担当者以外を対象とする研修会の実施	・幼小連携・接続の取組の組織的推進 ・架け橋カリキュラム PDCA サイクルの確立 ・保育・授業の改善、質の向上 ↓これらを経て…↓ ○子どもの生活や学びの変化 ・主体的に学ぶ姿の増加 ・安心して小学校生活を送る姿 ・非認知能力や社会情動的スキル等の向上
江津市	幼児教育施設・小学校の職員	計画性、見直しをもって定期的に公開保育・授業を通じたカリキュラムの検証・改善をする機会を作り、課題と成果の見える化・共有をする。	子どもの実態をもとに幼小が話し合い、協働して改善・磨き続けることで、実効性・持続可能性のあるカリキュラムとなる。
川本町	保育所、小中学校、高等学校、地域(委員会と福祉部局が連携して行う)	①架け橋期の考え方や子ども像を自治体方針として明文化。 ②年間計画に位置づけ、見直し、会議設定、予算措置などを行政が行う。 ③実践したことを記録し、共有する。子どもの姿を成果として言語化していく。	・担当者が異動しても変わらず行う。 ・保小連携が日常業務になる。 ・架け橋期の視点で授業や保育を行うことで、子どもたちが安心して学びにつながる。
美郷町	保育園、小(中)学校の先生方に対して	幼小連携の場をつくる。	・ベクトルが揃う。 ・取組のサイクルが回る。 ・笑顔が増える。
邑南町	小学校と保育所(園)の管理職と当該学年・組の担任	①全校区ごとに架け橋期カリキュラムの作成 ②小学校・保育所・行政で架け橋期カリキュラムの共有・理解する ③架け橋期カリキュラムを実践し、定期的に評価・改善につなげる仕組みづくり ④保護者・地域との連携強化(サポートをしやすくする)(コミュニティ・スクール、公民館、地域の団体等が関心を持ち、関わり続ける。)	・小学校・保育所それぞれの教育方針の理解が深まり、同じ方向で子どもに関わることができる。 ・子どもに架け橋期につけたい力がつく。

益田市	小学校の管理職を始めとする職員、幼児教育施設の園長を始めとする職員	市主催の悉皆研修を通して、「架け橋カリキュラム」の意義について周知し、各小学校区にふさわしい「架け橋カリキュラム」の作成と実施を促す。場合によっては、個別相談を行う。また、うまく進んでいる学校と困っている学校をつなぐ。	小学校では幼児期の学びを生かし、子どもの主体性を尊重した「ワクワクする授業」を展開する。幼児教育施設では子どもの主体性を大切にしたい遊びが展開される。
津和野町	町の管理職	子どもの姿を見て聴いて、語り合う。	0～18歳の教育がつながる。
吉賀町	小学校の管理職(校長)	幼小接続の重要性についてくり返し説明する。	小学校から幼児教育施設への働きかけが増え、職員間の積極的なかわりが子どもへの切れ目ない支援につながる。
海士町	福祉部局担当者や次の教育委員会担当者	園や学校の協議会の場に参加し、運営に参画するように伝える。	架け橋カリキュラムの行政側の理解が図られ、学校や園など現場が負担に感じるところを担ってあげられる。
	町内2園の園長先生	保高連携教育推進協議会保小部会の活動の中心に、架け橋カリキュラムをもとにした実践とその見通しを据えてもらうようお願いする。	毎年少しずつブラッシュアップされたカリキュラムを中心に保育施設と小学校がつながるようになる。
西ノ島町	関係者で	架け橋カリキュラムに軽重を付けることで、	実効性のあるカリキュラムにする。
知夫村	・福祉課(課長他) ・教育委員会 ・小(中)学校教職員※学年担当含	顔・名前の一致できるよう、年度の早い時期(4月～5月初旬)に紙媒体で通信を作る。	・知夫村の子ども達のことを校内で話題にできている。 ・村内の運動会や総合の発表会や村内のお店で出会った際など気軽に話ができるようになる。
隠岐の島町	各小学校、保育所(園)の管理職	相互理解と関係づくりを促す。	管理職から現場へと協働の輪が広がり、保育と小学校が互いのねらいを理解し合いながら、自然に連携できる体制が根づく未来
幼児教育推進協議会	管理職・担当者一同に	研修・語り合う場作り	・自分事として続ける ・子どもが変わった実感 ・管理職のリーダーシップ

# 令和7年度 幼児教育総合推進事業の成果と課題

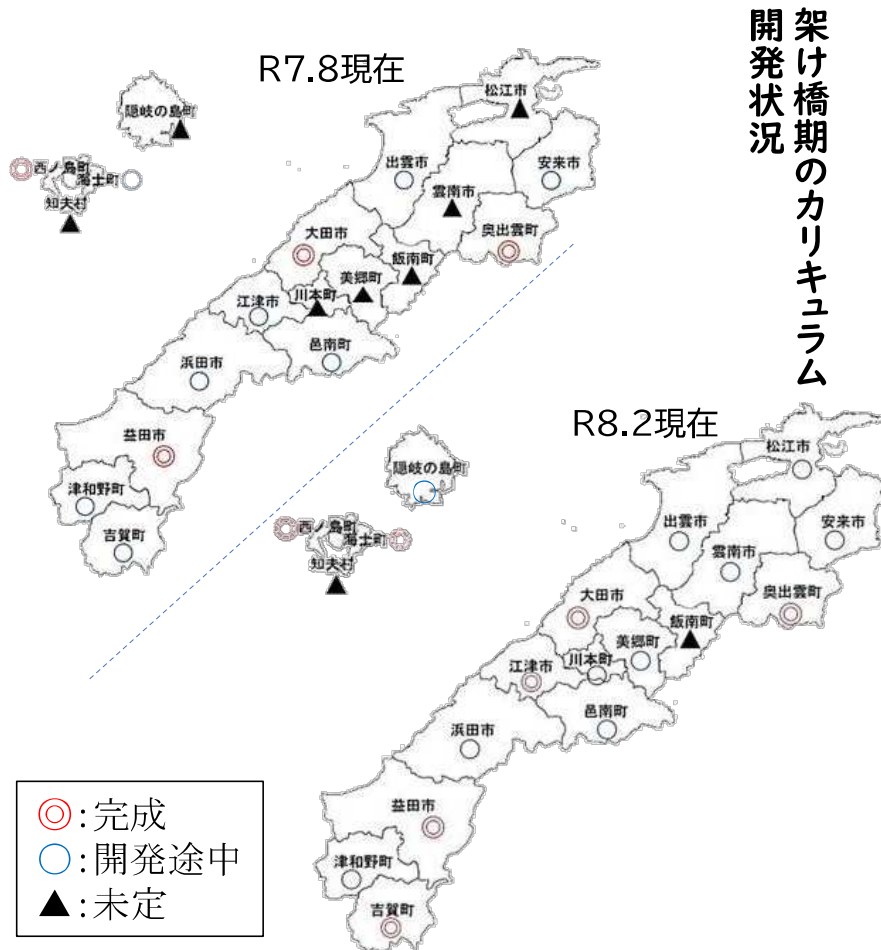
分析・課題の明確化





市町村支援  
幼児教育センター スタッフ派遣依頼状況 (単位:回・人)

	R6 (年間)		R7			
	センタースタッフ派遣回数	受講者数等	センタースタッフ派遣回数		受講者数等	
			上期	年間	上期	年間
松江市	16	478	9	11	74	213
安来市	1	2	3	4	75	77
出雲市	2	114	11	17	298	401
雲南市	4	70	3	4	57	132
奥出雲町	1	20	0	1	0	5
飯南町	0	0	1	1	6	6
浜田市	10	154	4	5	146	161
大田市	19	270	18	30	186	375
江津市	14	169	15	30	117	312
川本町	0	0	2	4	60	75
美郷町	1	27	1	3	3	5
邑南町	1	32	4	5	39	56
益田市	4	119	7	15	125	235
津和野町	6	219	0	2	10	10
吉賀町	5	58	1	5	30	62
海士町	1	3	1	2	9	14
西ノ島町	1	2	1	2	6	6
知夫村	0	0	1	2	6	6
隠岐の島町	0	0	1	3	11	14
計	86	1737	83	146	1248	2165



R8.2現在

# 幼小連携・接続に関する実態調査結果より



# 1 幼児の育ち(5歳児、1年生の育ちの姿)

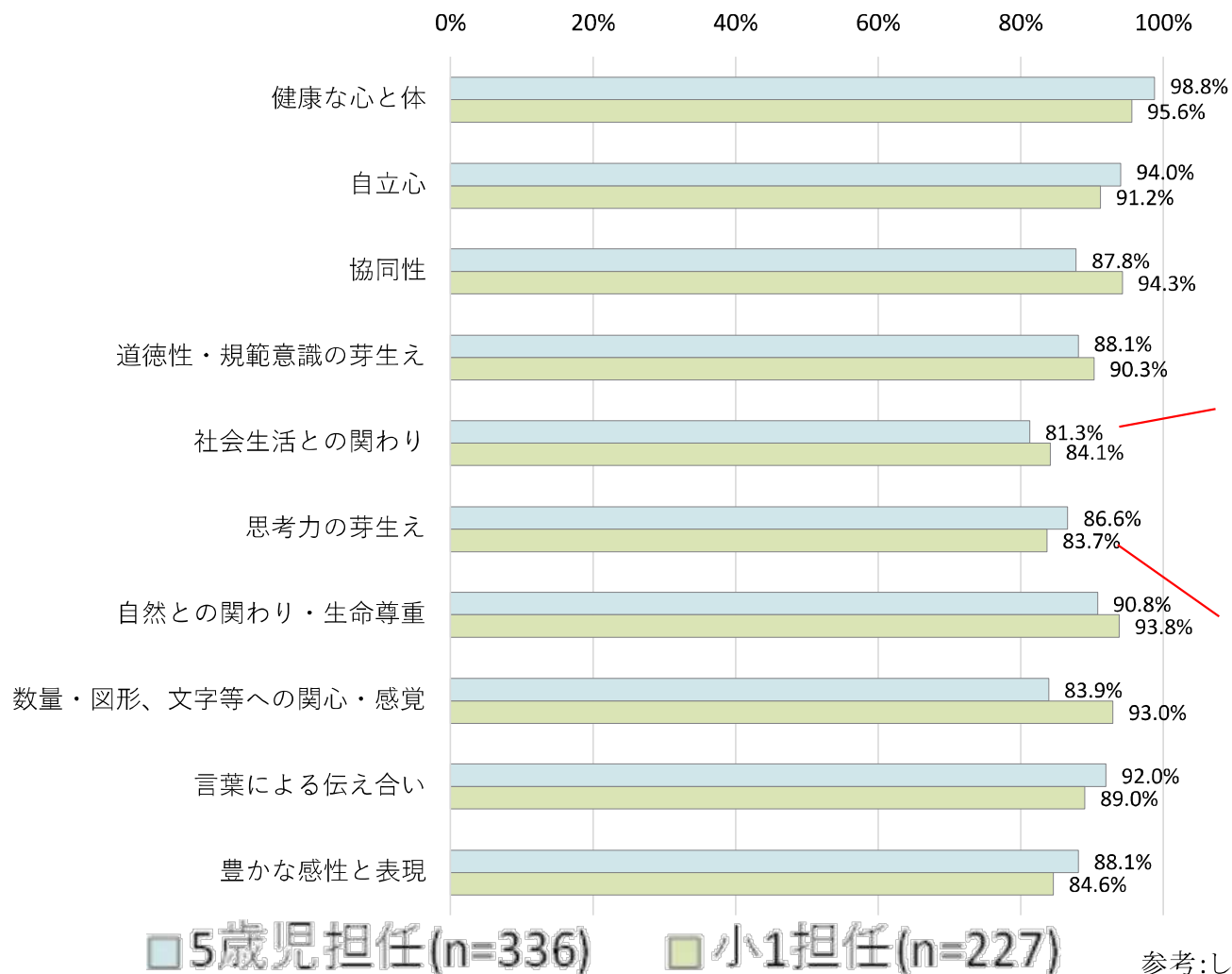
5歳児保育者

小1担任

## ○設問

【5歳児保育者、小1担任】現在担任しているクラスの幼児/1年生の10月時点の育ちの姿を選択してください。

※グラフは「あてはまる・おおむねあてはまる」の肯定的回答割合  
※項目は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」



18.7% = 約56クラスで、育成のための工夫・改善が必用

※ 幼: 1% = 約3学級

16.3% = 約32学級で、育成のための工夫・改善が必用

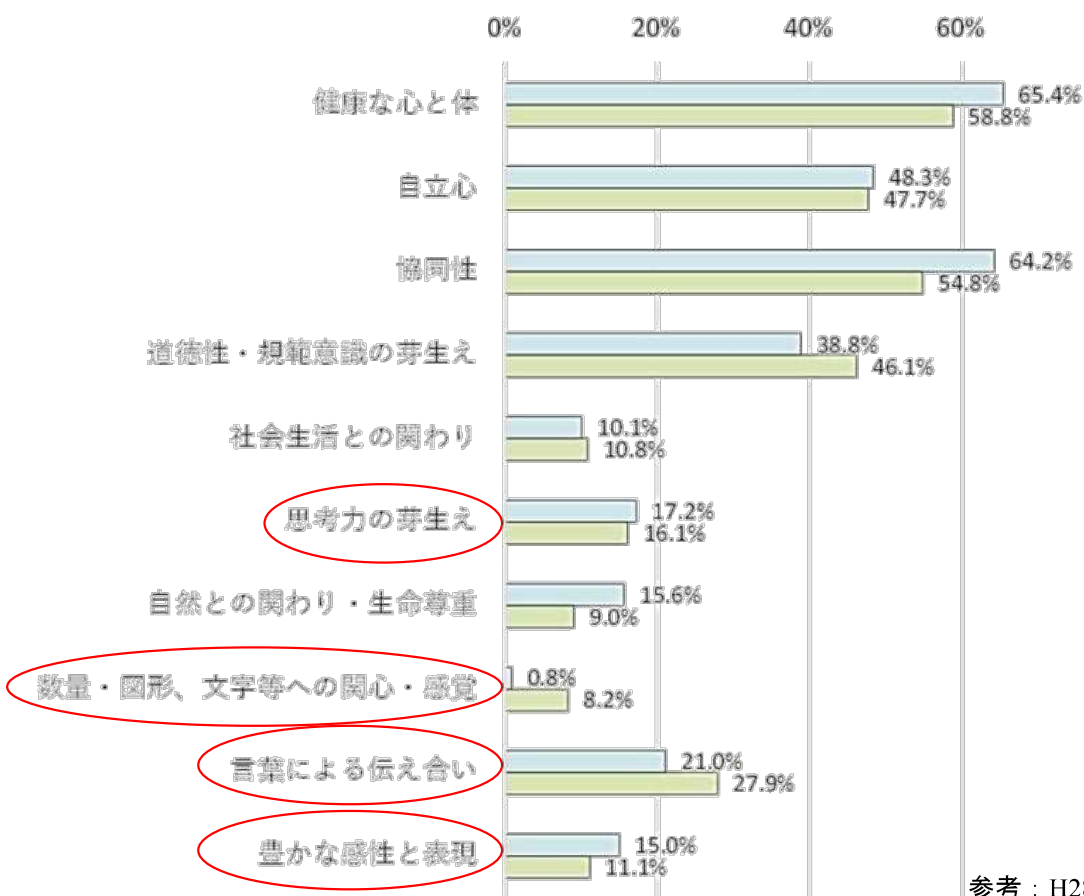
※ 小: 1% = 約2学級

○設問

【5歳児保護者】 幼児教育で育てたい力のうち大切だと思うことを3つ以内で選択してください。

【小1保護者】 幼児教育期に力を入れて育てることで小学校にスムーズに接続できると考える力を3つ以内で選択してください。

※項目は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」



【参考 「10の姿」と関連の深い教科】

- 思考力の芽生え  
国語、算数、生活、音楽、図工、体育
- 数量・図形、文字等への関心・感覚  
国語、算数、生活
- 言葉による伝え合い  
国語、生活
- 豊かな感性と表現  
生活、音楽、図工、体育

参考：H28 中央教育審議会答申/別添資料

(1:幼児教育、2:国語、4:算数、7:生活、8:音楽、9:図工、12:体育、17:特活)

□ 5歳児保護者(n=1,430)

□ 小1保護者(n=1,424)

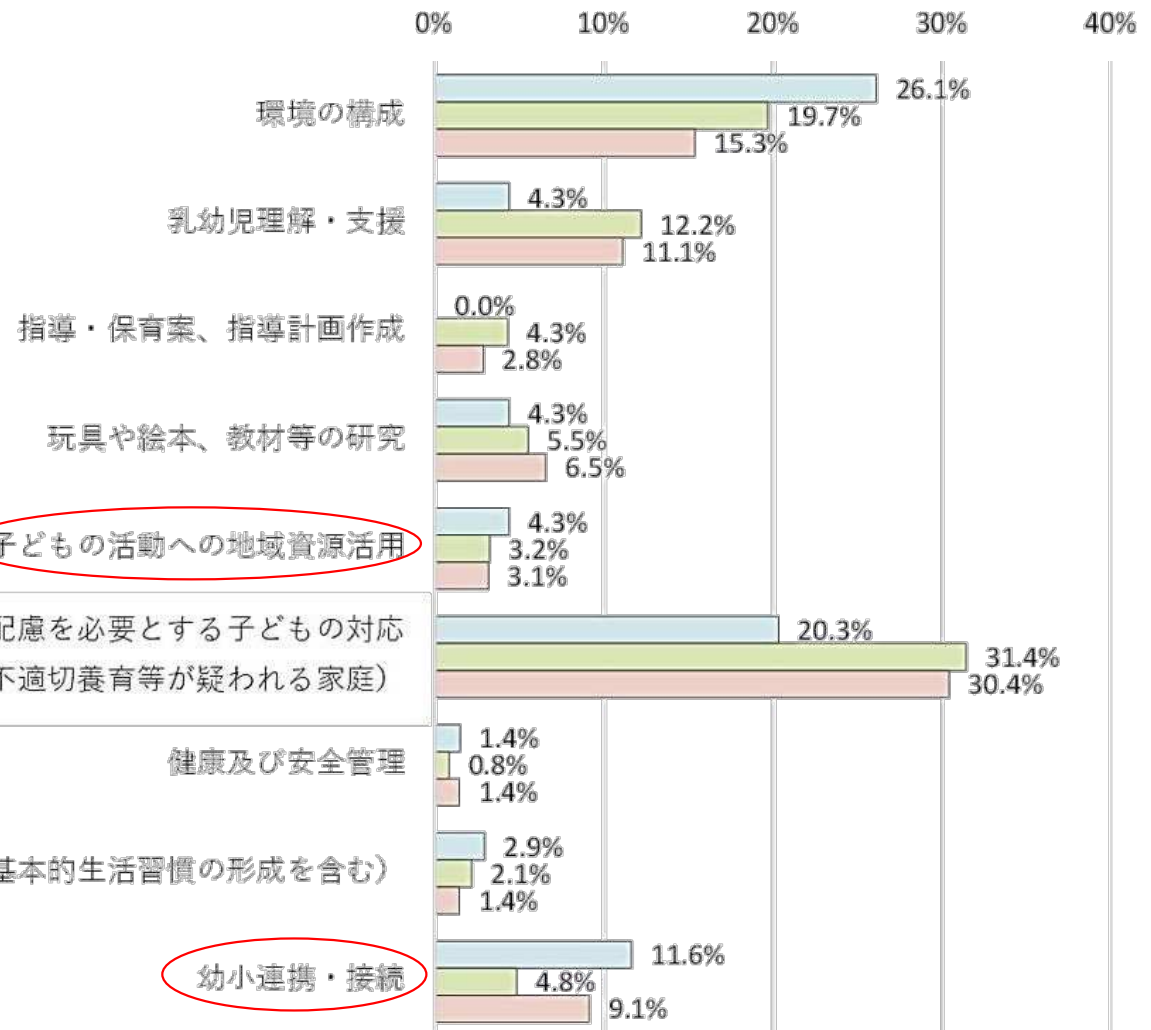
## 2 質の向上・保育者の資質向上(必要と思われる施設外研修)

### ○設問

【保育者】 今後必要と思われる研修を1つ選択してください。

現行幼児教育基準書の基本的理念「社会に開かれた教育課程」

…よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むようにするのかを教育課程において明確にしながら、**社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。**  
(幼稚園教育要領前文)



## 2 質の向上・保育者の資質向上(必要と思われる施設外研修)

### ○設問

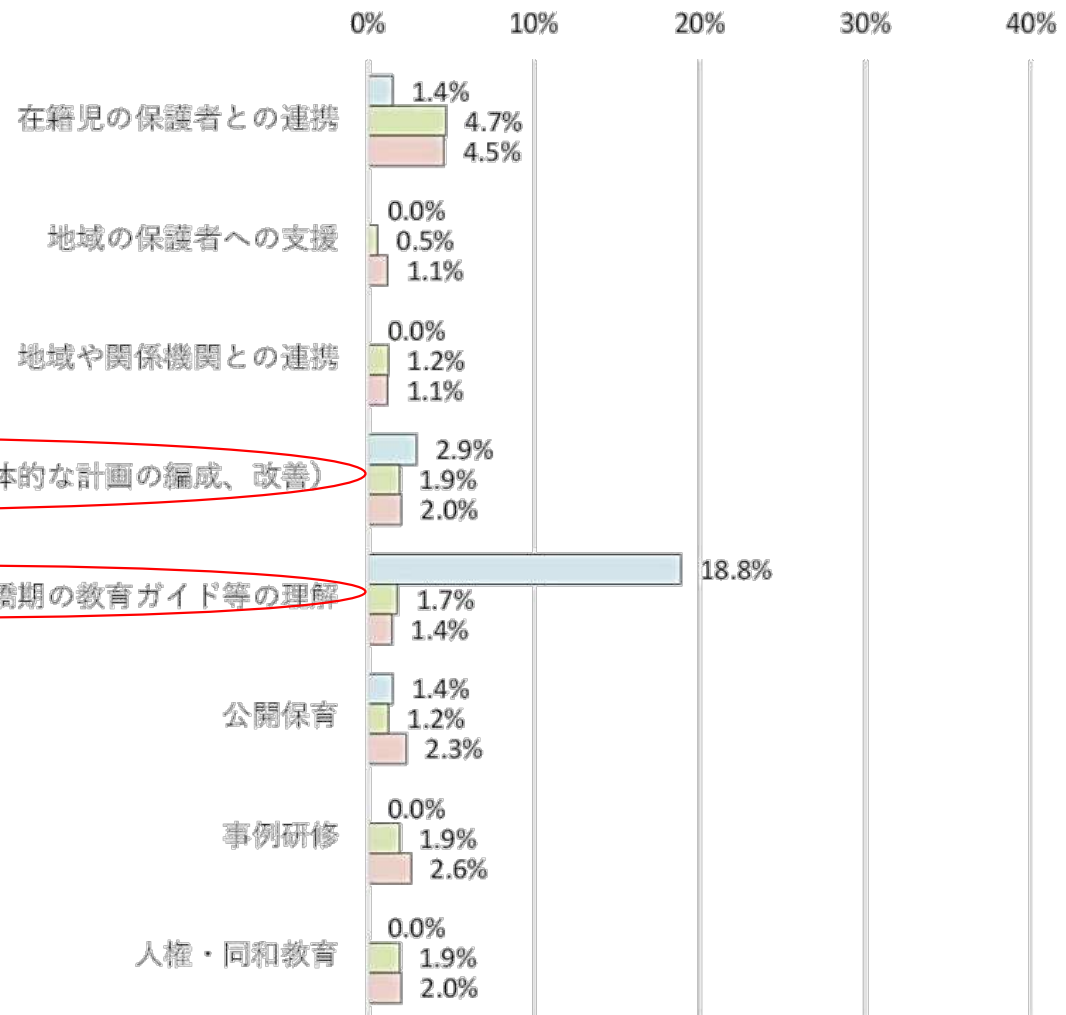
【保育者】 今後必要と思われる研修を1つ選択してください。

現行幼児教育基準書の基本的理念2  
「カリキュラム・マネジメント」

教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。  
(幼稚園教育要領総則)

カリキュラム・マネジメント (教育課程/全体的な計画の編成、改善)

幼稚園教育要領、しまねの架け橋期の教育ガイド等の理解

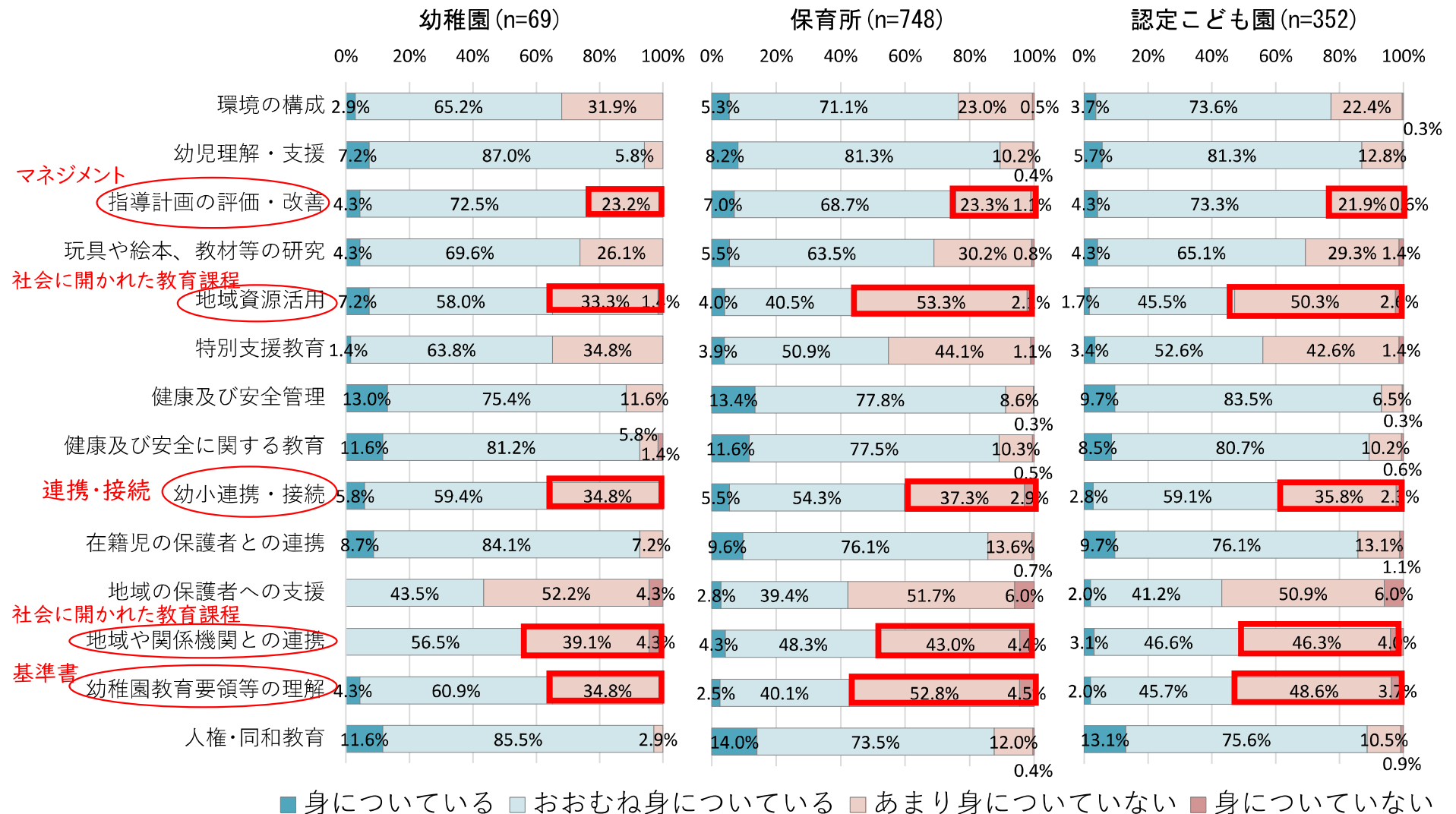


□幼稚園(n=69) □保育所(n=748) □認定こども園(n=352)

## 2 質の向上・保育者の資質向上(身につけている資質・能力)

○設問

【保育者】ご自身を振り返って、保育者としての資質・能力が身につけているかどうか項目ごとに選択してください。



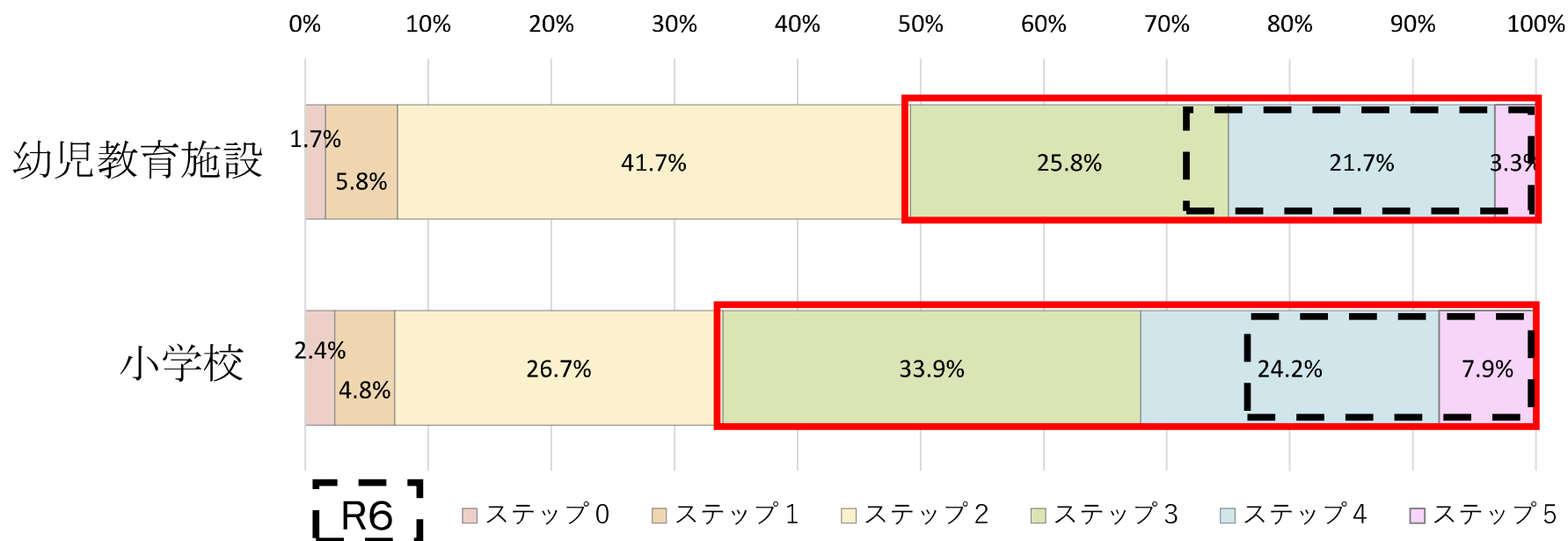
## 4 幼小連携・接続について(連携・接続のステップ)

園長・施設長

小学校長

○設問

【園長・施設長】 貴施設の所在する小学校区の小学校等との連携・接続は何番目のステップにあたりますか。



[R6]

■ ステップ0 ■ ステップ1 ■ ステップ2 ■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5

ステップ0	連携の 予定・計画は無い。
ステップ1	連携・接続に着手したいが、まだ 検討中 である。
ステップ2	行事参加、幼小合同研修等の交流はあるが「架け橋期のカリキュラム」の 作成は行われていない。
ステップ3	「架け橋期のカリキュラム」を 作成途中 である。
ステップ4	授業、行事、研究会等の交流が充実し、「架け橋期のカリキュラム」を 作成・実施 している。
ステップ5	「架け橋期のカリキュラム」の 評価・改善 が行われている。

## 4 幼小連携・接続について(連携・接続のステップ)

園長・施設長

小学校長

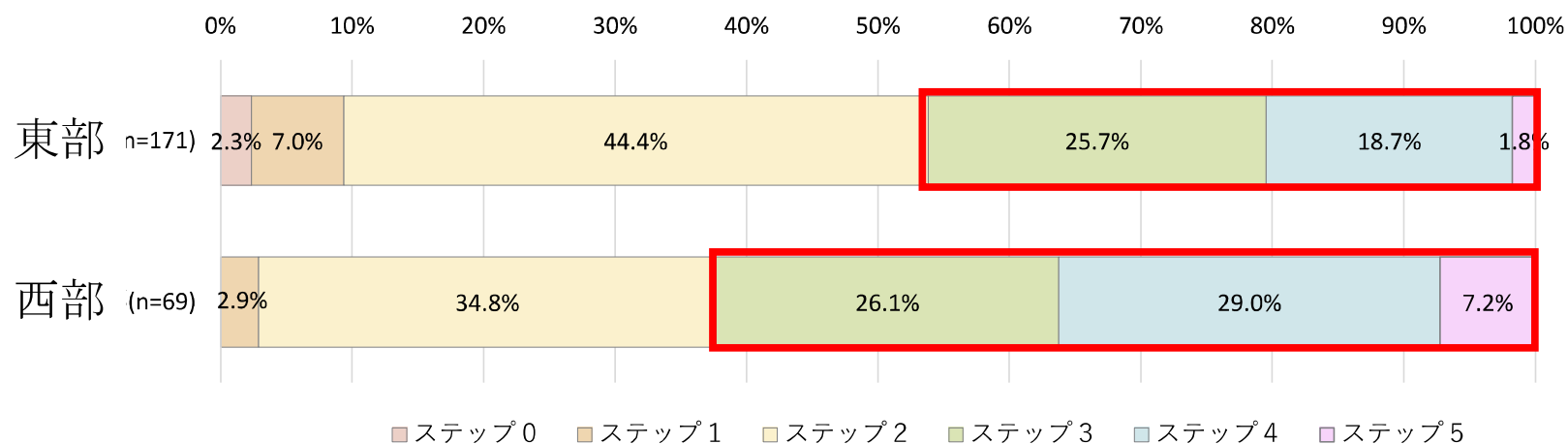
### ○設問

【園長・施設長】 貴施設の所在する小学校区の小学校等との連携・接続は何番目のステップにあたりますか。

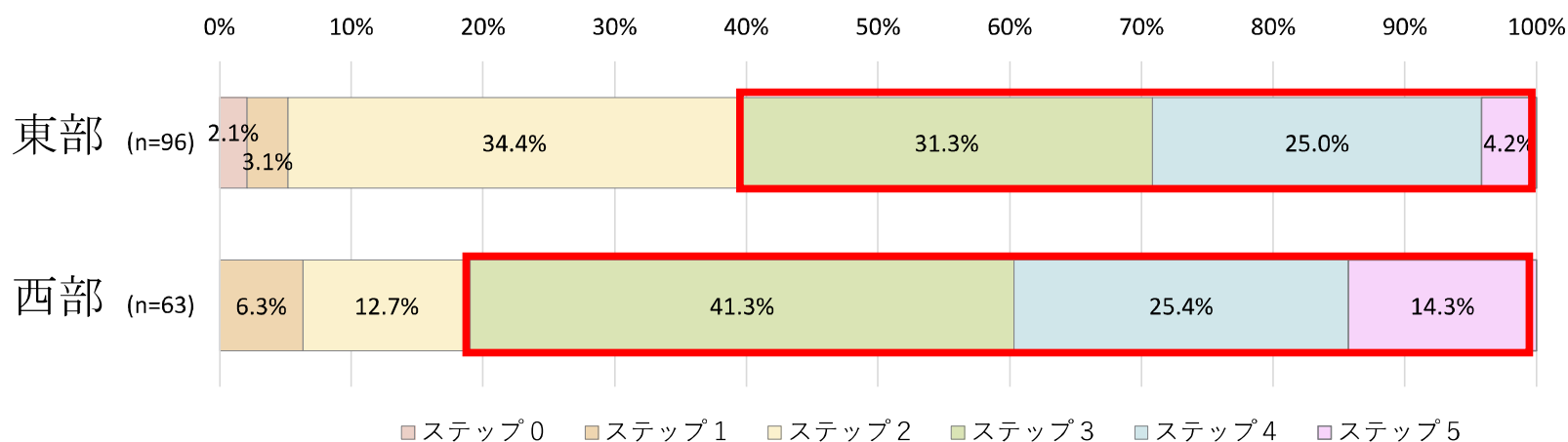
【 小学校長 】 貴校区の幼児教育施設との連携・接続は何番目のステップにあたりますか。

※東部、西部比較

### 【幼児教育施設】地域別

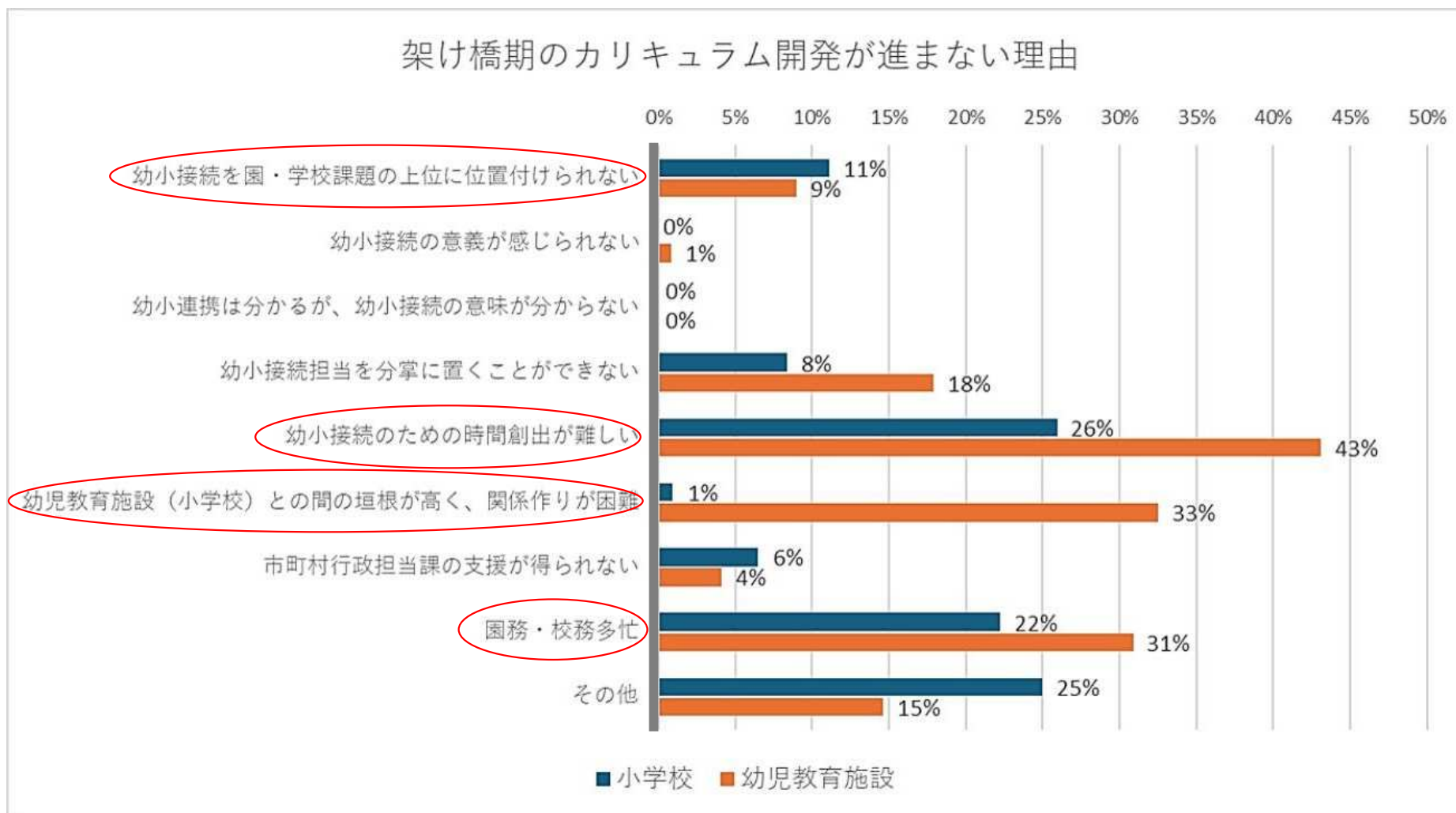


### 【小学校】地域別



## 4 幼小連携・接続について(連携・接続のステップ)

架け橋期のカリキュラム開発が進まない理由として考えられるものを選んでください。



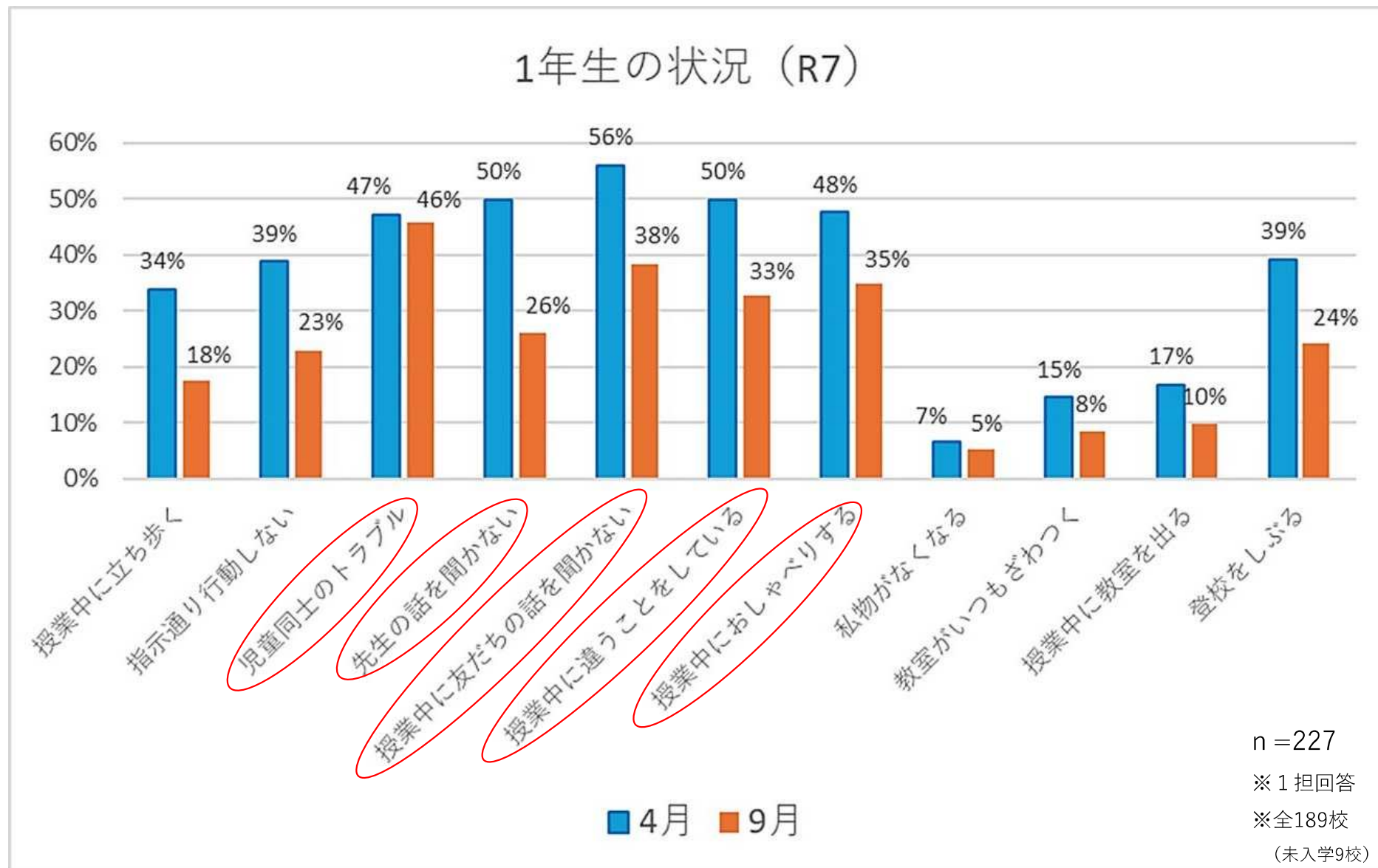
小学校長 n=148

幼稚園長 n=123

## 7 1年生の学校生活の様子について

### ○設問

【小1担任】4月および9月に見られた様子としてあてはまるものを全て選択してください。



### 【研修】

- ・幼児教育の基準書やしまねの架け橋期の教育ガイドの趣旨が心に響き、保育者が保育改善に取り組む意欲を高めるために、どのような研修を企画するか？

### 【市町村幼児教育アドバイザーとの連携】

- ・幼児教育施設の質の向上のために、園の実態や保育の実態から多面的にアセスメントし、指導・助言できるよう、市町村幼児教育アドバイザーとどのように連携するか？
- ・幼児教育アドバイザー不在の町村の幼児教育施設をどのように支援するか？

### 【幼小連携・接続の推進】

- ・幼小の先生方が「架け橋期のカリキュラム」実施意欲を高めるために、県ではどのような市町村支援を行うとよいか？

## R8 島根県の幼児教育推進体制（案）

### 島根県幼児教育センター

センター長（幼児教育推進室長）

副センター長（子ども・子育て支援課長）

【島根県教育委員会 学校教育課：幼児教育推進室】

- 室長 1名 ○総括
- 企画幹1名 ○市町村との連携・調整〈課題改善状況の実態把握分析〉  
○新規採用幼稚園教諭指導員派遣事業
- 指導主事2名 ○各種研修指導内容の充実、企画・運営  
○ふるまい推進員派遣事業
- 幼小連携・接続アドバイザー1名  
○各市町村等主催の研修支援（講師）R7の継続・拡大
- 幼児教育コーディネーター1名  
○幼児教育の質の向上に向けた市町村支援  
（市町村AD等への指導・助言、幼児教育施設への訪問指導同行等）
- 主事1名 ○文科省補助事業  
○幼児教育総合推進事業に係る事務

【島根県健康福祉部 子ども・子育て支援課】

- 課長補佐 1名
- 事務職員 2名
- 市町村等渉外
- 幼児教育推進協議会
- 幼児教育実態把握調査
- 新規採用保育教諭・保育士研修事業
- 幼児教育CN任用に係る事務

【社会教育主事 企画幹】

- スタッフ：松江・浜田教育事務所社会教育主事  
企画幹
- 各種研修におけるファシリテート
  - 各ブロック家庭教育支援の実態把握

### ◆市町村体制整備のための支援

島根県 【特別支援教育課 保健体育課 人権同和教育課 島根県教育センター 各教育事務所  
家庭教育支援・子育て支援担当者連絡会】

県

# 島根県 幼児教育総合推進事業（案）

市町村

C

**A**

島根県幼児教育推進協議会

評価 協議 審議

ガイド

**P**

島根県幼児教育センター  
健康福祉部 教育委員会

**連携強化 推進体制整備支援**

■市町村担当者会 ■AD研修 ■プラットフォームフォーラム

- 質の向上研修
  - 管理職研修
  - 中堅研修
  - 合同研修
- 幼小接続研修
  - 幼児教育推進研修

実施



実践力向上

研修企画

カリキュラム開発共同研究・人材育成  
(幼小連携・接続推進実践研究事業 ※委託)

D

架け橋アドバイザー  
・学びの集団づくり

保育士インターン

架け橋期のカリキュラム

カリキュラムコーディネーター  
・カリキュラム開発支援

成果普及

市役所  
市町村教育委員会・福祉部局

接続

質

接続

質

接続

質

接続

質

事業検証  
「幼小連携・接続に関する実態調査」



事業  
通知・報告・依頼

家庭庁

労働省

文部科学省

国

市町村支援企画

県 架け橋期のコーディネーター

幼児教育コーディネーター

幼小連携・接続アドバイザー

連携育成支援

市町村幼児教育アドバイザー

幼児教育担当課・教育委員会

幼小連携・接続同行支援

質の向上同行支援

家庭教育支援 等

## 令和8年度 島根県幼児教育センター取組の重点

### 『幼児教育の質の向上』『幼小連携・接続の推進』に向けて

#### ① 「しまねの架け橋期の教育ガイド」の更なる普及・啓発

- ・ 各種研修、架け橋期のカリキュラム開発会議等での活用促進
- ・ 概要版リーフレットの作成、配布、活用等

#### ② 各市町村体制整備の支援の充実

- ・ 各市町村の実態やニーズに応じた研修内容、研修方法等支援の工夫
- ・ 保育・教育現場に向けた島根県幼児教育センターの役割周知等

#### ③ 各市町村との情報共有や連携の強化

- ・ 市町村担当者会議、幼児教育アドバイザー研修等における各市町村の取組状況の共有と好事例の発信（横の連携）
- ・ 令和8年度幼小接続プラットフォームフォーラムの開催等

## 幼小連携・接続アドバイザーの業務について

### 1 令和7年度の振り返り

**第2 フェーズ「カリキュラム開発」** ※「カリキュラム開発の各フェーズにおける取組(例)」参照  
・R6 から R7 にかけて19市町村中15市町村の研修等支援。(R6 末は 11 市町村)  
・接続についての理解とカリキュラム開発についての研修を実施。

- 市町村の状況は様々で、担当者との相談を大切にしながら、状況や計画に合わせた支援を実施。  
多くの市町村で幼小接続への理解、意識化が進み、架け橋期のカリキュラム開発にも着手(15市町村)。
  - ・接続についての理解を中心に、今後の取組の見直しをもつ。
  - ・カリキュラムの柱となる項目について協議(「めざす子ども像・つきたい力」「大切にしている経験のプロセス」)
  - ・カリキュラムの完成(市町村モデルから校区版へ、市町村版、校区版、モデル校区版)
    - ・保育・授業実践、参観研修
- 先進的に進めている取り組み事例を共有することによる効果。
- 現場の多忙感、負担感を軽減できるように丁寧な伴走が必要。
- 『しまね架け橋期の教育ガイド』の活用の継続。

### 令和8年度に向けての問い

幼小の先生方が「架け橋期のカリキュラム」実施意欲を高めるために、県ではどのような市町村支援を行うとよいか。

### 2 令和8年度の見直し

**第3 フェーズ 架け橋期のカリキュラム「実施・検証」**  
・架け橋期のカリキュラムが完成、またはできつつある。完成して終わりではなく、次のステップとして学びをつなぐためにカリキュラムを踏まえた実践へつないでいく。  
・実践を振り返り、子どもの姿からカリキュラムを見直していく。

市町村の状況は様々であり、これまで以上に事前の状況把握や打ち合わせを丁寧に行うことを大切にする。  
実践への具体的なイメージが持てるように、また接続が実感できるように支援。

#### (1)実施 めざす子ども像に向かうために「大切にしている経験」の実践

子ども達がその「経験」ができるよう、環境や関わり、指導計画等を考えて実践する。

- 年間指導計画やスタートカリキュラムの見直し
  - ・活動や学習を見直し、「経験」を重点化する。また、それに関わる配慮事項を位置付ける。
  - ・幼児教育の視点や取組を生かしたスタートカリキュラム
- 保育・授業実践を通じた研修
  - ・保育や授業の計画、実践・・・計画段階から関わる。カリキュラムに記載される「経験のプロセス」を子どもたちにとってどのように保障していくのか、環境構成や教材、展開等を考える。
  - ・カリキュラム(経験、配慮など)を基に、視点を決め、相互参観。子どもの姿から協議。
  - ・幼児教育 CO や指導主事の専門性を生かし、スタッフ内や他課と連携して保育や授業に関わる。
- 好事例の紹介
- 交流活動の見直し(大切にしている経験・相互のねらい、配慮事項等)

#### (2)検証 「経験のプロセス」のつながりを確認

- 保育・授業参観により、子どもの姿から振り返り、確認する。
- 保育・授業実践の記録(ドキュメンテーション、たより等)を基に伝え合う。
- カリキュラムチェックシート等の活用
- カリキュラムの見直し(経験のプロセス、配慮事項)

#### ※その他

カリキュラム開発途中である市町村への支援の継続。2年間関わりがなかった市町村の状況把握と関係作り

カリキュラム開発の各フェーズにおける取組（例）

	フェーズ	行政（幼児教育担当課・教育委員会）の動き 例	開発会議の内容 例	小学校区取組 例	メモ
一年目 R・P	第1フェーズ キーワード 「互いを知る」 「組織がつながる」 「人がつながる」 ○幼小の教員等をつなぐ ○幼児教育施設をつなぐ ○行政担当部署をつなぐ	<b>■開発会議の設置</b> 行政担当者、幼小代表、有識者等  <b>【基盤整備】</b> ○域内の幼小接続に係るアセスメント ○開発会議の目的 ○関係部局連携のための担当者配置とその役割 ○行政と幼小をつなぐ担当者配置とその役割	○幼小の現状の共通理解 ○幼小接続の方針 ・幼小接続の目的・目標 ・成果指標の設定 等 ○行政の役割、小学校区の役割 ・教育委員会の役割、幼児教育担当課の役割 ・各幼小の連携・接続担当者の役割 他 ○架け橋期のカリキュラムの開発方針 ・開発ステップ、開発期間 等 ○幼小合同研修企画	<b>【小学校区開発会議】</b> ○幼小合同会議設置 ○幼小連携・接続の方針策定（目的・評価指標 等） ○カリキュラム開発方針 ○幼小交流の取り組み方 <b>【合同研修】</b> ○幼小接続の基礎・基本 テーマ例）国や県の推進施策 ・幼小接続の背景・意味・意義 ・架け橋期のカリキュラムとは ・「幼児期の終りまでに育てほしい姿」 ・幼児教育と小学校教育の段差 他 ○職員交流、保育参観、授業参観 テーマ例）保育・授業場面の子どもの好奇心 ・「10の姿」から保育・授業を検証 他	
	第2フェーズ（1年目） キーワード 「カリキュラム開発」 ○架け橋期のカリキュラム開発	<b>【カリキュラム開発】</b> ○カリキュラム開発支援体制整備 ○カリキュラム開発状況の把握・フォロー ○幼小合同研修の企画 ○小学校区の研修支援（講師招聘 等）	○カリキュラム開発における行政の支援 ○カリキュラムの記載項目 ○カリキュラム開発作業のスケジュール ○域内のカリキュラム開発に係る幼小合同研修の計画・実施、成果と課題の把握	<b>【小学校区合同会議】</b> ○カリキュラム実施・検証方針の共通理解 ・指導計画の作成、実施・検証方法について <b>【合同研修】</b> ○カリキュラム実施に活かす知見 テーマ例）「保育・授業における探究の学び」 ・「子どもに育てる『見方・考え方』」 ・「ユニバーサルデザインの保育・授業」 他 ○保育（公開）、授業（公開）を通してカリキュラム検証 視点例）「経験のプロセス」の妥当性 ・合科的・関連的指導の妥当性 ・配慮事項の見直し 等 ○幼小交流活動を通してカリキュラム検証 視点例）「経験のプロセス」の妥当性 等	
二年目 D・C	第3フェーズ（2年目） キーワード 「実施・検証」 ○幼小の教育の理解を深める ○幼小の教員等の関係性向上 ○幼児教育担当課・教育委員会の関係性向上 ○カリキュラムに基づいて教育課程・指導計画を作成し保育・授業を実施 ○カリキュラムの成果・課題の収集	<b>■開発会議の開催</b> ○定期的に行政担当者の連絡会開催 ○架け橋期のカリキュラムの実施支援体制整備 ○架け橋期のカリキュラムの実施状況の把握 ○幼小合同研修の企画 ○小学校区の研修支援（講師招聘 等）	○カリキュラム実施・検証方針 ○カリキュラム実施に係る合同研修の企画  ○指導計画・教育課程実施を通じた、カリキュラムの成果や課題の確認 ○幼小合同研修企画	<b>【小学校区合同会議】</b> ○カリキュラム実施に活かす知見 テーマ例）「保育・授業における探究の学び」 ・「子どもに育てる『見方・考え方』」 ・「ユニバーサルデザインの保育・授業」 他 ○保育（公開）、授業（公開）を通してカリキュラム検証 視点例）「経験のプロセス」の妥当性 ・合科的・関連的指導の妥当性 ・配慮事項の見直し 等 ○幼小交流活動を通してカリキュラム検証 視点例）「経験のプロセス」の妥当性 等	
三年目 A	第4フェーズ（3年目） キーワード 「改善・発展」 ○市町村の取組の評価・改善 ○架け橋期の教育推進について評価・改善	<b>■開発会議の開催</b> カリキュラム開発期間の取組を経て・・・ ○開発会議の評価・改善 ○幼児教育担当課・教育委員会の取組の評価・改善 ○カリキュラムの評価・改善 ○域内で共有する財産 他	<b>【評価・改善の視点：実効性・持続可能】</b> ○開発会議の評価・改善 ・持続可能な開発会議の在り方 ○幼児教育担当課・教育委員会の取組の評価・改善 ・小学校区支援 ・研修内容 ○子どもの事実の点検 ○カリキュラムの評価・改善 ・評価・改善の内容 等	<b>【小学校区合同会議】</b> ○子どもの事実の再点検 ・10の姿、県 幼小連携・接続実態調査結果等の活用 ○カリキュラムの改善・発展 ・カリキュラム項目および内容の見直し ○中長期的な展望の検討 ・架け橋期の教育の推進内容精選 <b>【合同研修企画】</b> ○互いの教育の財産を取り入れる・活かす ○持続可能性に向けたカリキュラムの改善・発展	

参考：「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」文部科学省  
「しまねの架け橋期の教育ガイド」島根県教育委員会

## 幼児教育コーディネーターの業務について

### ◀ 令和7年度の支援状況、振り返り ▶

#### ◎市町村(担当者、幼児教育アドバイザー)へのヒアリングにより状況把握、情報交換

～ 前年度 訪問できなかった市町村にも伺い、全市町村への訪問実現！！ ～

- \* 状況把握をする中で……………互いに課題が見え、関わり方が見え、それを共有へ
- \* きっかけづくりにつながって……………「こういうことならやってみたい」という動きに発展
- \* 関係づくりになって……………顔がつながり、その後の関係も広がった（相談しやすさをめざす）

～ 幼児教育施設の視察、施設長との情報交換、研究発表会などの取組の視察も実施、状況把握 ～  
（市町村それぞれの状況や思いを受け、そこに合った幼児教育推進の方法を共に検討、実施）

#### ◎市町村主催の集合研修、幼児教育施設ごとの研修

- \* 幼児教育に関する諸課題に対する研修実施(教育ガイドに触れながら)
- \* 事前に担当者、幼児教育アドバイザーと打ち合わせ、課題から研修方法を検討
- \* 自らの保育を振り返り、イメージをふくらませて「やってみたい」につながる演習を中心に

#### ◎園内研修、公開保育等、訪問指導の同行支援

- \* 保育内容に合わせて、資料を提示しながら支援  
（水遊び、どろんこ遊び、秋の自然物の遊び、造形遊び、運動遊び、表現遊び、異年齢保育など）
- \* 事前訪問して思いを聞き、事後訪問も合わせて寄り添う支援めざす（その日だけで終わらないように）

令和 8 年度に向けての問い

【研修】・幼児教育の基準書やしまねの架け橋期の教育ガイドの趣旨が心に響き、保育者が保育改善に取り組む意欲を高めるために、どのような研修を企画するか？

【市町村幼児教育アドバイザーとの連携】

- ・幼児教育施設の質の向上のために、園の実態や保育の実態から多面的にアセスメントし、指導・助言できるよう、市町村幼児教育アドバイザーとどのように連携するか？
- ・幼児教育アドバイザー不在の町村の幼児教育施設をどのように支援するか？

### ◀ 令和8年度に向けて ▶

- ★前年度を踏まえた、市町村の幼児教育推進状況について情報交換、実態把握、そして取り組みへ
- ・幼児教育アドバイザーを中心に市町村担当者と繰り返し顔を合わせてヒアリングをする中で対話を重視し、気軽に話し合える関係をめざして情報交換し、それぞれの市町村に合った幼児教育推進の取組のポイント、方法についてともに検討、実施する。

#### ★市町村主催の集合研修、幼児教育施設ごとの研修

- ・それぞれのテーマに合わせて幼児教育アドバイザーや市町村担当者の実態を踏まえて研修内容を検討し、参加者の保育に取り組む意欲につながるような研修をめざす。
- ・教育要領、保育指針、しまねの架け橋期の教育ガイド等と関連づけながら研修を進め、幼児教育の基本を意識できる機会とする。
- ・できるだけ演習の機会をつくり、参加者が互いに意見交換をし、横のつながりをもつことができるようにする。また、保育をイメージしながら「子どもってすごい！」「保育はおもしろい！」と感じ、明日の保育に意欲がもてるような研修を工夫する。

#### ★園内研修、公開保育等、訪問指導の同行支援

- ・保育者の声を聞く、思いを知ることからはじめ、保育内容に合わせて幼児教育のポイントをアドバイスするとともに、幼児教育アドバイザーと今後の支援などについて共有する。
- ・園の実態を把握する中で、保育を支える園のマネジメントの支援も意識して行う。
- ・実態に合わせて指導内容を考え、モチベーションが上がるような訪問のあり方を検討する。
- ・事前事後の支援も含め安心して相談できる雰囲気をつ心がけ、その日だけではない、やりっぱなしにならない研修のあり方を検討する。

#### ★幼児教育アドバイザー不在の町村への支援

幼児教育施設の研修の実態(保育研究会などの取組、法人の取組など)を把握した上で、市町村担当者と相談して支援のあり方を検討する。

## 資料6

島根県幼児教育センター主催研修の次年度の見通し

R 8. 3. 9 現在

名称	対象	日時	内容等
管理職研修 (幼児教育施設)	幼児教育施設の管理職	6月9日(火)	「生命の安全教育」について オンライン 【講師】 しまね性暴力被害者支援センターさひめ 支援員 藤田優子
中堅研修 (幼児教育施設)	幼児教育施設保育経験 10年以上、各施設でマ ネジメントを中心とな って行う者	6月25日(木)	「生命の安全教育」について オンライン 【講師】 しまね性暴力被害者支援センターさひめ 支援員 藤田優子
幼小連携・接続研修 (旧 幼児教育推進研修)	・幼児教育施設の保育者 ・小・中・義務教育学 校及び特別支援学校の 教職員 (必修) 国公立幼稚園及び公立 幼稚園型認定こども園 は各園1名以上	8月21日(金)	・実践発表 ・グループ協議 於：大社文化プレイスうらら館 【別途開催】 ＝オンデマンド配信＝ 8月7日(金)～8月28日(金) 【講師】未定 この講演は「島根県幼児教育研究会 セミナー」と兼ねる
保育教諭・幼稚園教諭 ・保育士合同研修	・幼児教育施設の保育者 ・小・中・義務教育学 校及び特別支援学校の 教職員	10月30日(金)	【内容】未定 【講師】未定